

京都ボランティア協会2014年度事業報告

目次:

前文	…1ページ
<事業>	
1 【ボランティアコーディネート事業】	…2ページ
2 【援助・交流事業】	…3ページ
3 【広報事業】	…5ページ
4 【研修事業】	…5ページ
5 【研究事業】	…6ページ
6 【地域における社会福祉の推進事業】	…7ページ
7 【評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】	…7ページ
8 【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】	…8ページ
<組織・運営>	
1 【組織・運営体制整備】	…9ページ

<事業>

【1. ボランティアコーディネート事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>ボランティアコーディネートの実施</p> <p>在宅でのボランティア活動</p> <p>グループ活動(協会内外)</p> <p>通年・継続</p>	<p>・ボランティア活動の啓発と推進</p> <p>・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流、ひいては社会貢献</p> <p>・ボランティア登録者継続と増加を推進。特に在宅生活者の依頼に応える、寄り添うボランティアの増加をはかる。</p> <p>・相談業務等から見える生活・福祉ニーズの把握と分析。</p> <p>・地域資源の把握(新たなボランティア活動先、受入先の開拓など)</p>	<p>①ボランティア相談(ボランティア活動希望者およびボランティア依頼者からの相談)</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等の実施</p> <p>③ボランティア登録者の増員と交流</p> <p>④ボランティアコーディネート事業体制の整備</p> <p>⑤福祉ボランティアセンターとの連携</p> <p>⑥「きょうボラ」発行(年4～5回)</p> <p>⑦大学・地域等への事業紹介等広報活動の実施</p>	<p>・ボランティア相談の実施 →ボランティア活動希望者からの相談は49人で昨年度の101人より激減。新規登録者も15人(昨年度は35人)と激減している。うち実際、ボランティア活動に参加した人は34人(昨年度67人)→ボランティアの依頼は62件(同85件)で、減少傾向は見られるものの活動希望者ほどの落ちこみではない。【別添資料1】</p> <p>・ボランティア学習会・研修会等の実施 →研修事業の講座を通し、ボランティア登録者の増員を図るべく活動。スリーAリーダー研修によりその気配を感じられるまでになってきた。</p> <p>・ボランティア登録者交流はねこのてさろん(会員・登録Vとの交流)実施によって図った。その結果として、朗読ワークショップより、新たなボランティアグループの立ち上げが見られ、一定の成果は上がった。</p> <p>・ボランティアコーディネート事業体制の整備 →協会内での情報共有の模索中。事務局長、コーディネータ職員の退職により、事務局体制再構築の必要に迫られている。 →下京区の高齢者相談会(年2回)には参加させてもらった。また、ケアマネや相談員とのつながりができている依頼もある。 →ボランティア活動希望者はホームページをみて問合せしてくる人が多く、一般的な「ボランティア」から幅広く問合せが入ってくるので、総合的な相談に対応するのは難しい場合もある。他機関との協力体制が益々必要だと思われる。</p> <p>・福祉ボランティアセンターとの連携 →個別ケースで情報交換し、ボランティアの紹介実績あり。依頼があった。</p> <p>・「きょうボラ」年5回発行。「ボラタス」と共に発送。また講座等の機会を捉え配布している。</p> <p>・大学等への事業紹介活動の実施 →華頂女子高やワタキューへは研修の機会を捉え紹介しているが中々活動に結びつかない。発信し続けることと発信内容を検討する必要はある。</p>	<p><ボランティア登録者増></p> <p>・「心の栄養支援ボランティア養成講座」の開催で、参加者の中から登録希望者が出るなど、その成果は上がりつつある。特にスリーA認知症予防ゲームは、新しい仲間づくりができ、横のつながりもでき新しい局面を迎えつつある。来年度も引き続き講座を実施することにより、流れを確実なものにしていきたい。</p> <p>・「ねこのてさろん」は、確実に居場所作り、仲間づくりとして定着した感がある。今後は、如何にこの活動を広げ、新しい人に来ていただくかが課題と思われる。口コミで広まるのは勿論、地域と密着し、地域の人に来てもらえるよう、地域活動との連動、地域への広報を考えたい。なお、菊浜学区の「朝カフェ」に参加。今後も参加し交流の糸口にしたい。</p> <p>・ボランティア交流会の実施 →ボランティア活動後の感想・意見等を聞き取り、活動者の声を発信するとともに、登録者の交流会等の開催により、未活動者が一歩を踏み出せるよう工夫をこらしていきたい。</p> <p>・アンケートの活用 →ふれあい祭り等のアンケートを活用し、ボランティア募集情報等の情報を、協会から発信し、協会との関係を継続できるように出来ないか。</p> <p><ボランティア依頼者増></p> <p>ボランティア登録者増を図るとともに、登録者に活動の場を提供するためにも、ボランティア依頼者増を図ることも必要があると考え。</p> <p>・個別に個人の依頼者を増やすことは、社会環境の変化等もあり、現状、依頼者からの連絡を待たざるを得ない状況である。ただ、依頼に対し、紹介できる割合を増やすことにより、増加に繋がってほしい。</p> <p>・団体については、ワタキューグループの新入社員研修ボランティア受入先との関係を切り口にして、増加に結び付けることができないか検討する余地はあるのではないかと。</p>

【2. 交流・援助事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>「第7回きょうボラふれあい祭」開催1/12 650名来場者 30団体 実行委員スタッフ23人 後援団体12団体 協賛 団体34団体</p> <p>会場「ひと・まち交流館 京都」</p> <p>通年・継続</p>	<p>・新たなボランティアスタッフの人材 発掘と育成。 ・ボランティア、関係団体、企業その 他との交流、連携推進。 ・新たな活動の創造・発信。 ・ボランティア中心に、祭準備段階 から企画・運営を参加団体と事務局 が連携強化して行う。</p> <div data-bbox="389 783 669 919" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「きょうボラふれあい祭」企 画内容変更、運営、作業 ボランティア募集！！</p> </div>	<p>①ボランティアスタッフ等の募集と学習 会</p> <p>②実行委員会の設置(企画・運営)</p> <p>③祭のホームページの管理</p> <p>④バザー物品、抽選物品の確保</p> <p>⑤広報の充実(パンフレット・ちらし他)</p> <p>⑥祭記録・報告書の作成</p>	<p>6ヶ月前から募集チラシを配 布し、報道関係にも記事の掲 載を依頼、掲載された。 「ねこのてさろん」「心の栄養 支援ボランティア養成講座」 の参加者にも呼びかけ、参加 者を募った。</p> <p>・委員会・準備委員会・振り返 りの会合計9回 毎月の実行委員会前にボラ ンティアスタッフ説明会を開催 した。</p> <p>・ボランティアが作成・管理で 各担当(市場等)や祭の楽し さをアピール・広報する。</p> <p>・物品の集まりは少なくなった が、会場の規模も狭くなり物 品を厳選して並べることがで きた。黄色いレシートキャン ペーン活動でのレシート金額 から得られた京都市のゴミ袋 は毎年重宝されている。</p> <p>今年の「祭」ちらし、ポスターなどはボランティアス タッフがデザインから担ってくれた。(昨年までは 外注) きょうボラふれあい祭の公式キャラクターが誕生 し、評判が良かった。(ともちゃんとボラびよん) ボランタスには毎回「祭実行委員会だより」を掲 載し、「祭」の広報に力を注いだ。 ・京都新聞五条販売所にも折込チラシなど協力し ていただいたが、地元のイベントと重なっていた。</p> <p>規模は例年よりも グラウンドが使い ず小規模になっ た。会場が狭く参 加団体の活動が 制限され、スタッ フに負担が重な った。 従来のメンバーに 加え新たなメン バーが増員され た</p> <p>※助成金等(順不同、敬称略)</p> <p>黄色いレシート贈呈金 48千円 バザー・協力抽選券売上 510千円</p> <p>※寄付金 (使途:高齢者と社会生活に不安を抱く若者がつくる居場所)</p> <p>京都府共同募金 320千円 ファンケル(株) 100千円</p> <p>※京都府共同募金会へ抽選券売上金10%の寄付 35,220円</p> <p>添付資料2</p>	<p>今年は20名の祭実行委員で企画、運営と祭 を創り上げていました。他にウエスメンバー、 登録ボランティア、障がいを持つ若者と連携が でき、成功裡に終わった。今年は、講座や大徳 寺分室の改修及びカフェの開設などが同時進 行でバザー・景品などの置く場所に戸惑った。</p> <p>メンバー定着と活動しやすさを考え、ボラン ティアスタッフの参加しやすさをともに模索して いく。</p>



福祉フェスタ参加団体として	「ひと・まち交流館 京都」ボランティアビューローグラウンド1ブース	・大徳寺ウエスメンバーと若者ウエスとの参加でボランティアビューローでバザー、「Tシャツアート」を開催した。 ・高齢者とメンタルな若者ほかの共同作業である。	当日晴天で来場数も多かった、早々に食品も売れた。協会のボランティアスタッフ25名参加。バザー会場は、わかりにくい場所なので当初客数も少なかったが、ボランティアの工夫でボランティアビューローの場所の案内をグラウンドで広報していた。徐々に数も増え300人ほどが来場された。	
<p>サロン活動(ボランティアビューロー活性化)</p> <p>「ねこのてさろん」の運営</p> <p>通年・継続</p>	<p>・多様な興味や関心を持つ人たちとの交流を通じた「居場所」や仲間づくり。</p> <p>・多様なメニュー企画立案作りによる人材及び団体交流。</p> <p>・お互い様精神復活。</p> <p>「ねこのてさろん」企画・運営ボランティア募集！！</p>	<p>①単発活動企画の年間計画化</p> <p>②居場所機能の活性化:メンバー募集、仲間作り</p> <p>③活動グループ化、自主運営化</p> <p>④新規グループ作り</p>	<p>・2年前に寄付されたTシャツの効果は2014年も年間を通じて「Tシャツアート」という企画を開催。京都府の地域力再生の「あすkyoフェスタ」、スポーツセンター「夏祭り」にも参加した。</p> <p>・高齢者の持つ社会資源と特技を持つ若者の協力で学びという満足感と仲間づくりの小さな一端を担うことができた。囲碁・パソコン講座・朗読発声サークルも自主運営になってきた。</p> <p>今後もインドア企画リサーチ、充実と参加者募集方法(広報)に課題がある。リーダー的な人材育成も考える必要がある。</p> <p>のべ参加人数:463人</p> <p>「ねこのて」に参加する利用者に「やりたいこと」など、アンケート調査をした。アウトドア的なことが多く上がり、それをサポートするボランティアが必要である。人材確保が求められている。</p> <p>・新グループの誕生:朗読発声ワークショップから朗読サークル「かみふうせん」が結成。</p>	<p>最近メンタルな病気を抱えて参加する人が多く、社会人の参加は少ない。</p> <p>この事業を継続するのなら、企画・提案するボランティアの養成が必要。</p> <p>やりたいことなど書き出し、アンケートを協会内に掲示している。</p> <p>サロン活動に「心の栄養支援ボランティアリーダー養成講座」参加者に継続的に声をかけている(出席者名簿作成)</p> <p>※認知症予防リハビリゲームを取り入れ、地域の人とともに活動に取り組む。</p>
<p>ウエスグループへの支援</p> <p>継続</p> <p>通年</p> <p>月2回第2、4木曜</p>	<p>・活動歴27年近いグループであり、協会活動の支援者である。メンバーの高齢化により、活動の継続を目的に支援する。</p> <p>・12月より「ウエス&おしゃべりカフェ」の開設 各月1回</p>	<p>①ウエス作業支援(ウエス販売含む)</p> <p>②ミニバザーの実施支援</p> <p>③ウエスさろん&「おしゃべりカフェ」の場の充実</p> <p>④ウエスグループスタッフによる諸団体の啓発活動</p>	<p>ウエス作業支援(ウエス材料の調達)</p> <p>ミニバザーにミニコンサートを含め来客の確保。</p> <p>おしゃべりカフェの充実。2年間で大徳寺分室を改修した、バリアフリー&室内の改修など(京都府共同募金会の助成金)</p> <p>青少年街頭活動、赤い羽根共同募金街頭活動、黄色いレシートキャンペーンの参加</p>	<p>・ウエスメンバーが若者にウエス作り方など指導している。高齢者と若者とウエスの布地別に分担し、納期に間に合うように調整する。</p> <p>・ウエスの材料の調達のため、新聞掲載ほか広報を依頼。</p> <p>・Tシャツ(白メリヤス)の在庫はあるが、現在のところ調達できるが来年度の在庫の確保が難しい。</p>

【3. 広報事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
「ボランティア」他広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア」「きょうボラ」他媒体による情報提供と発信。 ・ホームページにて情報の公表を行い広く市民への広報活動。 	<p>「ボランティア」発行(年5回)</p> <p>「きょうボラ」発行(年5回)</p> <p>ホームページ管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回発行 ・「ふれあい祭特集・報告」、「祭実行委員だより」など実行委員スタッフに投稿を依頼、掲載した。 ・講座内容をテープ起こしして、ボランティアに掲載した。好評であった。 ・ドキュメント報告(災害)など個人で行かれた報告を掲載した。 <p>ホームページもリニューアルをした。見やすくなったと好評である。</p>	<p>テープ起こしは、相当な時間がかかる作業で事務局で対処するのは負担が大きかった。</p>	<p>ボランティアで画像編集やちらし・ポスターなどできる人を積極的に起用し、依頼したい。目的として、社会的に不安を持つ若者に就業につながるよう応援をする。またボランティアの記述するページを設け、ボランティアの啓発に挑戦できる機会をふやす。</p>

【4. 研修事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
<p>後期・継続</p> <p>華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に行われているボランティア活動を学び、活動を通し気づき、共感する心を育む。 ・身近な地域の福祉活動や、高齢者・障害者・児童領域の現状を障害当事者や活動団体から学ぶ。 	<p><ボランティア講座> 対象：1年生全員(77名) 授業位置：「総合華頂探究」(総合学習) 授業時間：90分 期 間：6月、11月、2月 実施。 授業内容； 高齢福祉：「認知症サポーター講座」を実施。 (公認「認知症サポーター講座」に準拠) 指導支援 粟田包括支援センター・東山社協 児童福祉：①児童館の仕事を学ぶ。 ②赤ちゃんとふれあい体験 ①②共・市立葵児童館親子教室の11組の親子。 指導等支援 葵児童館館長・児童厚生員 上記児童館より11組母子 障害福祉：①「車椅子利用者から生活課題を学ぶ」 ② 車椅子の基本操作を体験する</p>	<p>授業後のレポートから学習状況を把握。</p> <p><認知症について>ほとんどの生徒は身近に接する機会がなく、病態等の知識、課題を学び、身近な問題として捉えることが出来た。<赤ちゃん講座>生徒数に対し、子どもの数が少なかったが、こどもの仕草や動きの可愛さに生徒の表情が終始和んでいた。</p> <p><車椅子他体験>準備できた車椅子の台数が多く階段、トイレ利用なども含め体験出来た。片麻痺体験グッズを利用した片麻痺・高齢者体験は障害からくる負担感を体感できる機会になればと期待したい。</p>	<p>学校側の事情から、「ボランティア講座」の時間が縮小されてきている。授業の特性から活動体験や、障害を持つ当事者の話等を探り入れ理解を促したいが、時間的な制約がある。並びに学内での授業に限定されている事情がある。</p>	<p>協会の強みは、福祉に係る人材や現場の情報豊富である。当講座では、これらの強みを活かしつつ、今後は、時間的な制約から座学中心に、地域活動や福祉現場を紹介し、生徒に福祉活動の魅力が伝えられる講師を求める必要がある。</p>

<p>高齢者・障がい者・こども分野講座実施</p>	<p>・各領域で求められるボランティア像を知り、実践や体験活動を取り入れ、人材発掘の機会を増やす。 ・各領域の課題を学び、ボランティアグループ、NPO団体との連携を図る。</p>	<p>・ボランティア活動にあたって知識・技術を身につける講座・研修。 ・各領域の現場で直面している課題を現場から学ぶ。 ・ボランティア研鑽とボランティア同士の交流、特に福祉領域のボランティア活動者の敷居を低くし、互いに支えあう活動を増やす。 ・地域生活で求められているボランティアを知る機会。 ・在宅生活を豊かにすることをお手伝いできるボランティアを知り、実践や体験活動を取り入れた内容の講座づくり。</p>	<p>「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」を7回シリーズで開催した。 施設で必要とされているボランティアのスキルやコミュニケーション能力を高めるためには好評であった。特に認知症予防ゲームはアンコール講座を設け、リーダーの養成まで3回開催した。述べ50名余りのリーダーが誕生した。今後協会のボランティア活動に協力してくれている。障害編では「心の不安を打ち明けて」の2回とも他府県からの参加もあり成功裡に終了した。来年度も継続の声が上がれば実施する予定。高齢者と社会に不安を抱く若者の居場所づくり」と再掲。</p>	<p>広報ではちらし配布など力を注いだが新聞の掲載には及ばない効果がある。 毎回のコースを新聞に掲載していただき参加者アンケートでは、京都新聞で知ったとの多くの回答があり、電話での問い合わせも殺到した。 ボランティアビューローの活性化に伴い、すべての講座をボランティアビューローで開催したが、狭くもあったが親密感ありでよかったと言われたが検討しなければいけない。</p>
<p>ワタキューグループ新入社員研修(5/26~6/10)福祉施設ボランティア体験講座の企画・講師派遣</p>	<p>・ボランティア精神を学び、座学や体験活動を通じての「人間力」育成。 ・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。</p>	<p>・ボランティア活動の意義を知り、実際に体験活動を通じて現場の職員や当事者と接する機会を通じて交流する。 ・社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会の提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)。 ・ボランティア活動や講座の情報提供や発信。</p>	<p>4回目の新入社員研修であり、体験や当事者からの話を取り入れた講座をすることで、ボランティア活動体験だけでなく座学も学ぶ機会になったと好評。福祉現場でのボランティア活動は、受入先事業所にも評判がよく、企業側の人材育成を知る機会であり、利用者の方を含めて喜ばれる受入先が多かった。 施設での活動日数の増加する希望があった。 ※2014年度は、児童館連盟協会、日本新薬株の「ボランティア講座」の依頼もあった。</p>	<p>「ボランティア」を研修に取り入れたことの意義などの発信をもっとしていく必要がある。教育的意義もあるだろうが、根源的に「ボランティア」の中にある普遍的な意義はアピールする必要性を感じた。</p>

5. 研究事業

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題
<p>新規事業に関する調査研究 ①京都市マーケット事業 ②高齢者と社会生活に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)</p>	<p>① ・京都市マーケット回収事業は、2年前から施行している。 ・手軽に出来るボランティア、だれでも出来るエコ・リサイクル活動である。 ・地域住民に社会貢献活動の啓発や就労支援の活動(障がい者とともに)として研究課題(京都市の助成金交付対象) ②ボランティアビューローのサロン事業の活動 (認知症やひきこもりなどの予防)</p>	<p>①京都市マーケット回収(ゴミ減量推進活動) 京都市では、「ごみ量をピーク時の半分以下まで減らす」という目標を掲げている。 古紙・古着等は、地域の集団回収(コミュニティ回収)を奨励している。減量・リサイクルの推進が特に重要な課題となっている。 ②地域の高齢者や障害者が手軽に来れるサロン(例:趣味・お話し相手等)で認知症やひきこもりなどの予防。</p>	<p>① ・地域住民の協力を得ながらリサイクルの活動が高められ、情報交換会(年1回)では市民一人当たりのゴミの排出量は政令都市で京都市が最小となっている。 ・地域ボランティアはじめ未就労な若者が事業に参加することにより社会とのつながりをつくり、お互いに協力・工夫しながら、この活動が続けられている。 ・この事業は3年目に入り、高齢者が持つ社会的資源を活用しながら、若者を理解し、若者は高齢者を配慮し、成長していく姿が見られる。 ②高齢者と社会的に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)京都市府地域再生助成金申請 報告書 別添資料3</p>	<p>・社会的に不安を抱く若者は、社会貢献に参加することが苦手とする人が多い。ゆっくりと社会とつながるように支援していきたい。 ・人の多いところ、声かけなど特に苦手意識が強く、機会があるたびに参加するように勧めている。 ・第7回ふれあい祭には、ウエスグループと共にバザーで参加した活動ができた。 ・朝早い約束をすると不安が募る人が多い。 就業に向けた生活習慣をゆっくり整えていく。 ・就業支援B型に移行する人も増えてきたが、すぐに馴染めずフォローが大事である。</p>

ボランティアコーディネーターに関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の啓発と推進。 ・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流等。(社会貢献活動) (【1. ボランティアコーディネーター事業】)の再掲 	<ul style="list-style-type: none"> ・当協会のコーディネーターの範囲が広く、各分野の検討。 	介護保険制度改訂の状況を踏まえ相談援助検討を図る。
----------------------	--	---	---------------------------

【6. 地域福祉推進事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
災害支援活動	「京都からできること」人的支援・物的支援等後方支援をする		<ul style="list-style-type: none"> ・協会内に募金箱を設置、些少ではあるが京都府共同募金会に寄付をした。 ・赤い羽根京都府啓発共同募金街頭活動に延べ19人参加。 	「京都からできること」を考えているが、人材不足など課題が多い。	協会は、災害活動ができるリーダーが必要である。災害ボランティアの問合せの場合は、京都府災害センターにつなぐ。

【7. 地域密着型外部評価、介護・福祉サービス第三者評価事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	指針・改善策
地域密着型外部評価事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い評価を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価員の増員 ・評価者の研修体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より洛和グループ11事業所減になるも9事業所増となり、過去最多の計60事業所になる。 ・現在評価員の登録数が3名増となり計20名となる。 ・審査会のあり方、訪問調査に当って交通費等の効率化などについて改革を講じた結果、支出軽減に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規参入の調査機関が1社増え5社になるが、27年度より小規模多機能型居宅介護の外部評価が廃止の方向である(前年実績30事業所)ため、グループホームの受審争奪戦が更に激しくなると予想される。 ・主任評価員の育成が急務であり、協会独自の研修を強化し、受講を義務化、必須とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進のため新規開設事業所の情報を早くキャッチしてアプローチをする。 ・多数の事業所を運営する法人の本部にアプローチを強化する。 ・事務経費の見直し、削減策を更に徹底する。

介護サービス第三者評価事業の充実	・質の高い評価を目指す。	・地域における社会福祉の推進 介護や福祉サービスの質を高め、広く市民の介護・福祉サービスの選択に資することに携わる活動です。介護保険制度や事業に関心と、理解を深めること。事業の重要性に鑑み、引き続き取り組んでいく。 ・協会の評価事業を実施する目的は、単なる収益のみでなく、利用者との関わりの中で得た経験と知識は他の組織にはない独自固有のものである。標準化された評価に加えてボランティアの独創的な視点からの助言や情報提供ができる。ボランティア活動の事業を支えるための重要な財源でもある。さらに公益性のある事業として調査員にも協力を求めている。 ※調査員(者)は全員が協会会員で協会の事業を支援している。	受診件数が前年度より9事業所増になり、21事業所になる。(現在府下17調査機関あり) 登録評価員は重複含めて19名。	・受診率の比較的高い特別養護老人ホーム、通所介護を中心に協会PRが不可欠である。 ・現在各分野(サービス)別に営業促進ツールとしてA4チラシを作成中である。	全てに共通ですが、受診件数獲得に向けて事務局にも限界があるため、理事を中心に審査員や会員の人脈など総力を結集して取り組む必要があり、そのため今年度は具体的に理事会に於いて施策及び行動指針を示していただきたい。 ・事業所数を多く持つ大法人にターゲットを絞り込んだアプローチが不可欠である。
福祉サービス第三者評価事業の充実	・質の高い評価を目指す。		受診件数は、前年度より3事業所増、計8事業所となり収益増に貢献した。特に今年度は京都府が「福祉人材育成認証制度」を創設してそれ取得するために、受診料が高い障害事業所が3事業所増加した。それに3年に一度義務付けられた社会的養護施設が2事業所及び児童館が2事業所増となる。	・社会的養護施設(京都府下25施設)の内、4施設を受診済。 ・上記とは別に受診料(30万)が高い児童・保育・障害分野の事業所獲得を目指す。介護サービスと合わせて現在受診促進チラシを作成中である。	・福祉サービスについて、社会的養護施設以外(障害事業所・児童館・保育園)の報酬も見直す必要があり、現在申請中である。
評価・調査事業の管理・運営体制の整備	・効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制の整備	評価・調査事業 25年度 6460千円 26年度 8970千円 (前年度より 2510千円増)		

【8. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
企業・労働組合との協働と交流	・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。	①協会事業(祭等)への参加および企画等への参画。 ②社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会の提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)。 ③ボランティア活動や講座の情報提供や発信。	祭協賛団体の継続参加。	協賛団体ボランティア参加の減少。 企業側ニーズの情報収集不足。	祭に特化せずボランティア情報等を流せるような工夫。あるいは企業の社会貢献活動事例紹介など。 ※日本新薬(株)、児童館連盟協会から「ボランティア講座講師派遣」の依頼をうけ、協会の事業の紹介に取り組んでいる。

<p>幸せの黄色いレシート キャンペーンの参加</p>			<p>2015年度は合計53,000円をギフトカードで受領(2015.4.11)(第8回きょうボラふれあい祭 大抽選券景品に使用予定)。</p>	<p>・キャンペーンの為にボランティア協会参加延べ32名。(昨年比較増12名) ・気軽に参加できるボランティア活動の一つであるが、午前と午後に分かれ、ボランティアは一人でも参加してくれている。 ・このキャンペーンは、当協会のPRの機会である。</p>	<p>一人でも多くのボランティアを求めていく。一般市民への協会活動の広報・啓発機会と促れ、地道な活動を行なう。 2014年はボランティア主導型で活動してくれた。まだ人数が足りていない。</p>
---------------------------------	--	--	--	---	--

<組織・運営>

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	事業目的	事業内容	事業成果・今後に向けて
<p>組織基盤の強化</p>	<p>・会員増員・確保に取組み組織基盤を強化する。 (賛助会員の拡大)</p>	<p>①会員拡大委員会の設置 ②イベント等参加団体・者への会員案内・勧 ③各新聞社・関係団体の広報媒体の活用 ④理事、会員との交流の機会を設ける</p>	<p>①会員の高齢化もあり、年々会員が減少している。会員拡大委員会の設置が急務である。 2014年度 入会者8名 退会者60名(会費長期の及ぶ未納者含) ②③イベント等で団体・グループ・会員案内。 (幸せの黄色いレシートキャンペーン・各イベントで随時配布) 会員から会員への口コミが効果的ではないか。 京都市ボランティアセンター・新聞社・関係団体の広報媒体の活用。 ④理事、会員との交流の機会を設けるために総会後のボランティアカフェなど計7回を設けているがボランティアの参加が少ない。 ・2014年度第7回ボランティアカフェでは「これからの京都ボランティア協会のあり方」など自由に話し合った。さらに来年度は会員や一般も巻き込み協会の将来展望を探求する。</p>
<p>運営体制の整備</p>	<p>・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築き、運営体制を整える。</p>	<p>①一般社団法人移行後・事務体制の強化と、迅速な事務遂行 ②事務局体制の整備(人員の補強) ③理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携の強化</p>	<p>①公益目的支出計画書を毎年提出が義務付けられる。公益事業をしつつ収益事業をしなければならない。今年度は公益事業の執行は多数の講座などで展開した。財政上は黒字になり公益目的財産額が増加した。常勤の職員の補充が確保できなかったことが原因。2020年までには2回の周年事業などが控えており、公益目的支出計画の実施期間に関しては、現状では影響がない。 ②公益事業及び収益事業の事業経費より人件費、調査人件費が主に占めている。事務局ボランティアスタッフ(交通費あり)を採用し、夜間業務パート3人更新。財政の安定化を図り、事業を拡大・新しい事業に着手すると同時に事務の効率化を図るために設けた。常勤の職員の確保が必要不可欠である(現在ハローワークで募集中)。 ③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流会ねこのてさろん・祭実行委員会等での交流の場に進んで参加するように努めた。</p>

		④ボランティアスタッフ研修会の実施 (再掲)	④ねこのてさろんの事業(再掲)2014年はレクリエーション等を会員・ボランティア登録、参加を増やす。 継続のボランティアスタッフにボランティア保険の費用は協会負担(2015年対象ボランティア45人11,250円)
・1階ボランティアビューロー管理・運営 ・3階のボランティアセンターの一部の管理・運営	・有効な管理運営をし、友好的で開放的な場を目指す。	①利用状況の把握・管理 ②広報物の掲示・整理 ③ボランティアビューロー活性化事業の促進	・お誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用されている。当協会行事(ねこのてさろん・祭・発送業務・企画委員会・評価事業の審査会)も利用している。他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 2015年度利用者人数:のべ3,500人(昨年対比1,500人増) ②広報物の展示の呼びかけをし、整理に心がけている。 ③2014年3月末に10年勤続した職員が退職した。職員の担当業務は危機管理が必要である。少数の職員だけに横の関係・つながりを常に意識しながら仕事を進める。 ・ボランティアビューローは、他団体から会議や打ち合わせには、使いづらいと言われている。ハード面の改修が必要である。個人でまたは一人で来館する人が多く、多彩なイベントなどを企画しなければ、大勢の来場、参加者を獲得できない。
財源の確保	・財源確保による安定的事業運営。	①助成金の確保 ②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘 ③会員拡大	①京都府地域再生力、京都府共同募金会、京都生命保険京都府協会、京都新聞社会福祉事業団、国際ソロプチミスト京都、会員、一般等からの寄付を頂く。 ②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進めている。 ③新規の企業の寄付を募り、京都オムロン地域協力基金(株)、ファンケル(株)から寄付をいただいた。 公益性のある事業を展開し寄付・会員を拡大する。

寄付者一覧

阿部秀樹	宇理須典子	京都語り部の会	神鳥基代子	白髭ふみ	企業他 助成金/寄付金 生命保険協会京都府協会
阿部隆二	大矢治世	古賀円	村上安子	木全満利子	丸清木材(株)
五十嵐敏勝	岡本民夫	高橋泰子	谷岡孝子	嶽山好男	黄色いレシートキャンペーン
岩佐敏子	下秋紀美子	山崎孝江	渡邊妙子	安田行雄	ファンケル(株)
上村正文	河田正博	松井三千	藤本守	匿名4名	京都新聞社会福祉事業団
上田充子	花園道心太鼓	松本淳子	柏原勇人・とみこ		国際ソロプチミスト京都
ウエスグループ		京都でてこいランド			京都市・京都府地域再生力 京都オムロン地域協力基金

「第7回きょうボラふれあい祭」事業報告

団体名 一般社団法人 京都ボランティア協会	事業名 第7回きょうボラふれあい祭
<p>【具体的な活動内容】 (事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等) 実施日時：2015年1月12日(月・祝) 10:00～16:00 場所：「ひと・まち交流館 京都」全館(京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1) 事業趣旨：きょうボラふれあい祭は、様々な形態のボランティアグループや個人ボランティアが発展する場とおして、来場して下さるお客様、地域の方たちとの交流を大切に、ともに生きると感じられるような場となるようにと願って継続してきた事業である。今回で7回目となる「きょうボラふれあい祭」のテーマを「スタート」と決めた。一般社団法人へ移行してから独自の「祭」は初めてで、新年早々であり、さらに2年ぶりの開催であること、気持ちを新たに人と人が繋がる場、きょうから明日につながる未来をみずえた「祭」にすることがその目的である。また、地域との交流・ふれあいを大切に、「地域を元気にする祭」としても親しまれ、誰もが主役になれることを目的として開催した。</p> <p>参加者の状況：来館数650人(概算) 事業内容：ふれあい市場、ふれあい大バザー、ふれあい大抽選会、ふれあいステージ、ふれあい親子広場、ふれあい情報PRコーナーを開催。</p> <p>※参加団体は総数30団体で、内訳は市場関連24団体、ふれあいステージに8団体(内2団体は重複しての参加)。 ※当日ボランティア103人、前日ボランティアは12人(いずれも実行委員スタッフ、事務局員含まず)</p>	
<p>【当日の様子】 ○当日は昨夜から雪のちらつく厳しい寒さとなったためか例年より来者数は減少。地元とのイベントとも重なった。大バザー会場では例年のごとく開場前から行列ができた。 ○参加団体の荷物の搬入では、当日の一般ボランティアの集合時刻より、早めに来てくれた学生ボランティアの協力によりスムーズに搬入することが出来た。 ○親子広場では、流行りの妖怪ウオッチのお面づくりを取り入れた。参加者が楽しむ様子が京都新聞に掲載された。 ○ステージでは、市田ひろみ氏を迎えてのトークショーがあり、事前に問合せもあり、満席になった。市田氏の体験談などで「祭」はいつそう盛り上がった。 ○毎年ポスターや配布チラシは外注でデザインしていたが今回はボランティアスタッフが作成し、新しい協会のイメージキャラクターも誕生した。祭のテーマである「スタート」、気持ちを新たに人と人が繋がる場、ハンディの有無に関係なくともに生きることが感じられるような会場となり、当イベントを成功裡に終えた。 ○ボランティア相談の窓口を設けなかったが1件のボランティア依頼があった。</p>	

【活動の成果や課題】

○2014年はボランティアビュローの講座等のイベントやウエス材料の在庫も多く、また大徳寺分室も「おしゃべりカフェ」を開催したので、バザー・抽選の物品の置き場所が限られてきた。物品の搬入が遅かったのが難をのがれたが、次回から置き場所を確保しなければならぬ。

○祭の直前に社会福祉協議会からの紹介で大学生のボランティアの祭の参加申込みが12名あった。ボランティア参加は授業の課題である。ボランティアセンターとの日頃の連携が実を結んだ。大学関係者からは感謝の言葉が贈られてきた。

○社会貢献という取り組みがある協賛団体の企業からは、ボランティア参加協力や物品提供がある。2年ぶりの開催にも係らず、たくさん物品の提供と社員のボランティアを繋げていただいた。新たな企業、学校（ボランティア講座講師派遣事業）において、「祭」の広報を呼びかけてはいるが、企業独自で「ボランティア活動」をすでに取り組んでいて、応募は余りない。

○「祭」のボランティアアンケートでは、抽選会場、親子広場は充実していて楽しかった、交代でステージを見に行かれたボランティアの方からも「面白い」「楽しい」などの声があった。来年もぜひ参加したいとの回答が多くあった。

○企画・運営のボランティア実行委員は社会人が多く、休日を利用し、時間の制約のあるボランティアスタッフには負担である。出来ることは昼間に来られるボランティア・経験豊富なウエスグループの人に引継ぎ、分担し、バザーの値付け、抽選の物品の仕分けなどを連携した。メンタルな若者も役割を担い、「充実した」と嬉しそうに答えていた。新メンバースタッフも加わり、新しい風が吹きさわやかな空気が流れていた。これからも新しいスタッフを育て、また障害のあるスタッフにも「遣り甲斐がもてるように楽しく」参加してほしい。

○ボランティア実行委員は企画から準備、実行まで時間の調整など大変苦労が多い。また「祭」の時期を決定するのも周りの状況・情報などを視野に入れ決めなければならない。いろいろな意見をくみ上げ、新しい仲間と交流する「祭」に作り上げていく満足感・充実感もある。「祭実行委員会だより」の広報は、委員以外の人にもわかりやすく好評であった。協会の事業として毎回すばらしい祭を作り上げていくボランティアスタッフのご苦労に感謝です。

事業報告書

団体名	一般社団法人 京都ボランティア協会
事業名	「高齢者と社会的な不安を抱く若者をつくる居場所づくり」
【具体的な活動内容】	<p>（事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等）</p> <p>趣旨</p> <p>協会らしさを生かした事業であり、社会的ニーズが高い。対象者は発達障害、メンタル面の病気など、何らかのハンディがあるために、ひきこもりや孤立状態になったり、生活経験の不足から、自立的な生活を送ることが苦手な人たち（特に、若い世代の人）に活動の場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者との交流機会が減り、孤立しがちな、ひとりぐらしの高齢者に目的をもった交流場所を作る。（公的制度の対象にならない人、公的制度が合わず利用しない人のため） ・ハンディをもつ若者（何かしたい、働きたい、自立したい）に目的をもった居場所づくりを開設し、関係団体と協力し新たな活動の展開をはかる。 <p>（1）居場所型事業として、現在の事業をもとに、当事者に社会的孤立を防ぐ暖かい「居場所」を開設した。</p> <p>①高齢者を対象にした社会貢献やイベント</p> <p>②障がい等の社会的ハンディを持つ若者を対象にするもの</p> <p>③運営趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理が厳しくない、責任が軽い、緩やかな場であること。 ・作業などを通じ、「自分が役に立っている」「役割が果たせる」など達成感を感じられる場とすること。 ・地域の高齢者との関わり方（世代間交流）についても実践した。 <p>「居場所」：京都ボランティア協会 ボランティアビューロー、当協会大徳寺分室のほか団体施設。</p> <p>※ 大徳寺分室は、若者や高齢者の居場所作りのために便宜上使用する、ウエスの材料や製品などの格納庫としても使用している。</p> <p>（2）協力的団体 LPW 若者と家族のライフプランを考える会、強迫友の会、八幡市役所子育て支援課家庭児童相談室、京都府家庭支援総合センター（ひきこもり相談）、一般ほか</p>
実施時間：	毎月第2、第4木曜日午前は高齢者、午後は若者
参加人数：	高齢者 延べ240人、若者 延べ64人（若者には一部交通費支給）
高齢者	平均75才 若者 30才前後（発達障害、強迫症、アスペルガーほか）
活動内容：	ウエス作業を中心にイベントのお手伝いや社会貢献（ボランティア活動）など
【活動の成果】	（今回の事業を通じてうまれた連携や地域での活動の広がり、気づいた点など）
・セルフヘルプグループ（SHGという）の情報収集や居場所を求めらるる当事者への紹介。	
・セルフヘルプグループの交流とネットワークづくりなど開始している。	（協会ホームページに掲載 SHGのホームページにもリンクされている）
・月2回ウエス作業が楽しみである。強迫症のある若者は、丁寧である。最近では親しくなっって会話が弾んでいる。	
・ウエス作業以外にも「祭」や「イベント」の準備に当日参加し、当協会の機関紙の発送作業など楽しんでいる。	・高齢者には、社会とつながる目的（ウエス作業リサイクル活動）をもった居場所に人気がある。
・作業から、強迫症状が表れ 作業のあと確認を頻繁に行うことがあり社会生活に支障をきたしているが、高齢者が持つ社会資源を活用し、若者に繋げ、ボランティア活動を通じて、社会貢献に参画することにより、社会性がひろがり、就業支援B型やアルバイトにつなげた。	
・今年5人の新しいメンバーが加わり、活動範囲が増え、これをきっかけに他の「居場所」にいけるようになった	

たと報告があった。

2014年は8人中2人が就労B型支援に通い始め、ほかのサービスにもいけるようになった。

・若者に交通費程度工賃を支払っているが、「働いていただきたくお金で初めて外食をした」と嬉しそうに語ってくれた。

・強迫症の若者ほか社会人と恒例になったボウリング会と食事会などを企画した。

セルブヘルプグループ「強迫友の会」の会員には協会に一人で来られない若者が多数いる。

家族の理解と当事者同志の声掛けをしているが、来てくれるようになるにはまだまだ時間がかかりそうだ。

・やや精神的に安定した若者が就業支援B型に行きかけたが体調が良くないと再びひきこもってしまう。継続的に声かけをし、社会への不安がぬぐえるようにゆっくりにゆっくりにあせらず応援・支援をしていく。

・ボランティアスタッフ等の人材養成

サポータースタッフの研修では、2014年度も、当事者の家族の会に参加し、当事者の家族からの

事例の情報をいただき、講座を開催した。外部のひきこもり等の講座にも参加していただいた。

○6月24日 「心の栄養支援ボランティア養成講座7回連続講座」

認知症の人の係り方など

○7月24日 「居場所をみつきたい」と「就業支援B型事業所について」～仕事がしたい～

講師：NPO法人就労つくしハウス元職員 精神保健福祉士 宮島真澄氏

○7月26日 ねこのてさろん おいしいコーヒーの入れ方、

授産製品の作り方「アクリルたわしを作ってみよう！」

NPO 法人就労うじねっとゆめハウスの協力

○8月2日 ねこのてさろん「夏祭&ミニコンサート」スイカ割り&たこ焼き焼いてみよう！！

NP 就労うじねっとゆめハウス 当事者のオカリナ演奏

LPW 若者と家族のライフプランを考える会 当事者2人の演奏

○11月8日 「心の栄養支援ボランティア養成講座2回連続講座」

～この人と話そう心の不安を打ち明けて！～

社会生活に不安を抱く当事者（青少年）体験発表 当事者2人

講師：NPO 法人就労うじねっとゆめハウス 江崎美子氏

強迫友の会 代表 今吉扶美氏 当事者 津野恵氏 参加者67人

※この講座には、メンタルな若者の当事者や家族が数多く参加してくれた。（京都新聞広報）

当協会の季刊紙「ボラタス168号」に掲載。

○11月22日「経験を積んで生きる力を」～可能性日路額選択肢を増やす～

講師：障害者自立訓練 プエルタ 施設長 津村 恵子氏

○12月8日 就労支援B型 見学&ミニ体験

つくしハウスなど 当事者と家族5人参加

○定例会 毎月1回で合計6回 毎月の行事の見直し、ウエス作業の感想、
当事者の日常的な事などの情報交換

・一人暮らしの高齢者は、ウエス作業やバザーの値付けなど手を動かしながら「おしゃべり」ができ、イベント等で食事と一緒にしたり、「居場所」に来るのが楽しみである。近隣の高齢者も参加している。

北区の町内会長から町内回覧・チラシなど広報にご協力を頂いている。

・高齢者や若者の参加も増え、協会の分室も3畳の間を改修した。

・高齢者や当事者の社会貢献などの参加は年間延べ113人ほど。

・若者には苦手な分野である「赤い羽根街頭募金活動」や黄色い幸せキャンペーンでの啓発活動は、少しずつ声が出せるようになってきた。

・キャリアアップのLPWの音楽隊は、当協会の「第7回きょうぼうふれあい祭」のステージで活動し、施設や居場所
所で活動できるように協会とネットワークを組みながら活動の場所を紹介している。

今年度も対象者や高齢者（おしゃべりカフェ）に力を注いだ。セルフヘルプセンターの1部であるグループ作りや居場所づくりを精力的に始めた。

アンケート結果13人回答（22人中）

(1) 当協会のウエス作業などを通じ、「自分が役にたっている」「役割が果たせる」など達成感を感じられますか
回答：1、はい（7人）理由（仲間と一緒にいられる） 2、いいえ（1人） 3、どちらともいえない（5人）
協会のボランティア活動（ウエスづくり）に要望があれば記入ください。

回答：特にならない 大勢いると疲れる

(2) あなたの性別・年齢は？ ・男性3人 ・女性10人

・20代（4人） ・30代（1人） ・40代（1人） ・70代以上（7人）

(3) あなたはこれから「おしゃべりカフェ」居場所づくりの活動の中でどんなことをしてみたいですか？

1、旅行（高齢女性4人） 2、社会貢献（街頭活動） 0人

3、協会の事務作業（若者1人） 4、ねこのてさろん（室内イベント）若者4人

5、手芸、事務作業（若者3人） 6、その他（ゴミ拾いなど）2人

(4) あなたは当協会以外で定期的に外出している場所がありますか

就業支援B型事業所、デイサービス、他のボランティアグループ、図書館、
病院、就労支援センター

※高齢者はボランティアグループに所属参加しているが、若者は「居場所」が少ない。

増やしていく機会を作り、当協会の事業でもある「祭」にも参加した。初めは集合時間が早いのが不安だったが「楽しかった」と感想を述べてくれた。

理事会開催状況

2014年度

回数	日程	主な議案・協議事項
第133回	5/21	2013年事業報告・収支決算報告承認される・監査報告について 役員の改選について
第134回	6/10	2013年度事業及び公益目的支出計画報告書、決算監査結果報告・役員改選ほか
総会	6/29	2013年事業報告・収支決算報告承認される・監査報告について 役員の改選について
第135回	6/29	・三役選任について、2014・2015年事業担当理事について・所属委員会委員・顧問選任・相談役選任について
第136回	7/22	・2014・2015年事業担当理事について ・所属委員会委員・顧問選任・相談役選任について・福祉ボランティアセンターにかかる指定管理者協定及び業務委託契約の現状と方針について
第137回	9/18	2015年度ワタキューセイモア株新人研修の受託について 2014年「第7回きょうぼうふれあい祭」開催について・ボランティアビューローの受託について・協会が実施するコミュニケーションカフェについて
第138回	10/21	監事岡田氏の辞任について 2015年度ボランティアビューロー事業の委託について/事務局体制について
第139回	12/16	ボランティア運営の取り組みについて(ボランティアセンターの資料に基づく) 2015年4月～事務局職員のシフト(案)について
第140回	1/20	2015年4月～事務局職員のシフトに伴いボランティア(有償)の導入について (ボランティアビューローの閉日時の変更に伴い)
第141回	2/13	2015年度事業計画(案)について 2015年度予算収支(案)について
第142回	3/18	2015年度事業計画にの再承認について 事務局体制について(事務局ボランティア採用)・印刷機購入について
第2回通常総会	3/22	2014年事業計画案・2013年予算書(案)確認、これからの協会の方向性について ボランティアカフェ交流会

定例的な作業・会議・講座

- ・基盤造成委員会
- ・調査員勉強会
- ・「祭」準備・実行委員会
- ・幸せの黄色いレシートキャンペーン：毎月11日
- ・ウエスグループ・若者ウエスグループのウエス作業・定例会
- ・協会大徳寺分室によるおしゃべりカフェ(月1回)
- ・京都市マーケット回収事業：毎月第1・3木曜日
- ・「ひと・まち交流館 京都」共同管理委員会：毎月最終木曜日
- ・事務局会議：第2・4火曜日(ケース会議第2火曜日)
- ・華頂女子高校エデュ・コースV講座(講師派遣年3回水曜日)
- ・第三者評価審査会・地域密着型審査会
- ・京都府青少年育成会街頭活動
- ・祭準備・実行委員会 祭スタッフ説明会
- ・調査員企画運営委員会・勉強会
- ・ボランティアカフェ
- ・「ねこのてらさん」月1回開催(ほか囲碁講座・パソコン講座・発声朗読ワークショップ)
- ・ちよいボラ(毎週水曜日・金曜日)

【京都ボランティア協会所属委員会】

- 京都府犯罪被害者支援連絡協議会委員
- 京都府犯罪のない安心・安全まちづくり推進本部会議委員
- 京都府市民参画会議委員
- 京都府福祉のまちづくり推進協議会委員
- 京都府社会福祉審議会委員
- 京都府血幹細胞移植対策連絡協議会委員
- 京都府精神障害者福祉審議会委員
- 京都府高齢者サービス総合調整推進会議委員
- 京都府道づくり検討委員会
- 京都府社会福祉協議会理事
- 京都府社会福祉協議会評議委員
- 京都市福祉ボランティアセンター運営委員
- 京都市障害者スポーツ振興会顧問
- 京都市アジェンダ21フォーラム幹事会委員
- 京都市ごみ減量推進会議理事
- 京都ユースサービス協会評議員委員
- 京都市障害者スポーツセンター評議委員
- 京都介護・福祉第三者評価等支援機構委員
- 京都府災害ボランティアセンター委員

2014年度カレンダー

4月	6日(日)	ねこのでさろん花見(毘沙門堂) 大徳寺分室: 10月1~5日(水)~赤い羽根共同募金活動
4月	11日(金)	黄色いレシートキャンペーン 2014年度分贈呈式
4月	13日(日)	大徳寺分室ミニバザー(やずらい祭)
4月	16日(水)	共同募金分配式
5月	10日(土)	評価事業調査員振り返りの会
5月	19日(月)~ 5/30	新入社会人向けボランティア研修 (ワタキューグループ様)
5月	24日(土)	ボランティアカフェ開催
6月	3日(火)	監査会「2013年度の事業&決算」
6月	12日(木)	出前講座「悪徳商法の対応」の講座
6月	20日(金)	朗読発声ワークショップ
6月	21日(土)	「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」開 始
6月	28日(土)	ねこのでさろん「強迫友の会と合同ボウリング」
6月	28日(金)	朗読発声ワークショップ
7月	3日(木)	新日本製薬「ボランティア講座」講師派遣
7月	10日(木)	〃
7月	17日(木)	〃
7月	20日(日)	でてこいランド夏祭り参加
7月	24日(木)	「働きたい・居場所をみつきたい(障害編)」 講座
7月	26日(土)	「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」
8月	3日(日)	京都市障害者スポーツセンター夏祭りに出 展
8月	5日(火)~	「夏休み宿題サポート」開催
8月	28日(木)	ボランティア発声作業
8月	30日(土)	「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」
9月	2日(火)	大徳寺分室改修工事
9月	13日(土)	「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」傾 聴
9月	17日(水)	ソロボチミスト助成金贈呈式
9月	24日(水)	祭参加団体説明会
10月	12日(日)	菊浜区民運動会
10月	19日(日)	福祉フェスタ参加
10月	25日(土)	「心の栄養支援ボランティア連続養成講座」開 始
10月	31日(木)	京都府福祉大会
11月	8日(土)	「心の悩みを打ち明けて(障害編)」講座開始
11月	12日(水)	外部評価新人養成研修
11月	18日(木)	大谷大学「地域福祉」打ち合わせ
11月	9日(日)	「下京ふれ愛広場」参加
11月	22日(金)	「心の悩みを打ち明けて(障害編)」講座
11月	23日(日)	「あすkyoふれあい祭」に参加
12月	22日(木)	大徳寺分室「おしやべりカフェ」開催
12月	22日(木)	ボランティア発声作業
12月	26日(金)	朗読発声ワークショップ
1月	12日(日)	第7回きょうぼうふれあい祭 開催
1月	16~30日(金)	朗読発声ワークショップ
1月	22日(木)	大徳寺分室「おしやべりカフェ」開催
2月	9日(月)	京都生命保険協会助成金贈呈式
2月	13日(金)	朗読発声ワークショップ・北区社協と打ち合わせ
2月	15日(日)	公開講座「認知症の人の心を知る」
2月	26日(木)	京都市ゴミ減量推進会議
2月	28日(土)	ねこのでさろん「節分行事」
3月	7日(土)	下京なんでも相談会出席
3月	16~17日(月)	認知症予防リハビリゲームリーダー研修開催
3月	22日(土)	第2回通常総会&交流会(ボランティアカフェ)
3月	29日(土)	ねこのでさろん「Tシャツアートなど」